

議会だより

みなみふらの



第3回定例会概要

2 P

委員会レポート

3 P

一般質問

4～5 P

町長の行政報告

6～10 P

教育長の教育行政報告

11～12 P

研修会

13 P

議会の動き

14 P

9月定例議会

平成30年第3回定例町議会は、9月19日に招集され、会期を9月19日から21日までの3日間と決めた後、町長の行政報告10件と教育長の教育行政報告7件、議会運営委員会報告、総務常任委員会報告、総合交通体系等調査特別委員会調査報告、議員派遣報告があり、2議員による一般質問が行われました。（質問の内容と答弁の要旨は4～5ページに掲載）

その後、報告案件として平成29年度南富良野町健全化判断比率及び資金不足比率の報告を受けました。引き続き、平成30年度一般会計補正予算ほか2特別会計補正予算、条例の制定1件、条例の廃止1件について審議の結果、原案のとおり可決し、1日目を終了しました。

3日目の9月21日は、財産の取得1件、平成30年度一般会計補正予算1件について審議の結果、原案のとおり可決

- ・その後、教育委員会委員の任命について、無記名投票で採決が行われ、全議員の賛成で原案のとおり同意することに決定しました。平成29年度一般会計ほか各特別会計歳入歳出決算の認定については、議員6名による決算審査特別委員会を設置、付託し、閉会中の継続調査とすることに決定しました。次に議員提出による意見書案1件についても、審議の結果、原案のとおり可決し、全ての日程を終え定例町議会を終了しました。
- ・特産品開発支援事業助成金 100万円
- ・南富良野小学校木質チップボイラー燃焼室修繕料 239万円
- ・被災農地土層改良工事 334万円
- ・一般会計補正予算の主なもの
- ・会計年度任用職員条例等整備支援業務委託料 108万円
- ・旧金山中学校体育館屋根塗装修繕料 321万円
- ・マイナンバーカード等への旧姓併記に係るシステム改修業務委託料 185万円
- ・消費振興活性化補助金 550万円

平成30年度各会計補正予算	補正額	補正後
一般会計	2315万円	39億7052万円
国民健康保険事業特別会計	308万円	3億3500万円
後期高齢者医療事業特別会計	—	4283万円
介護保険特別会計	40万円	2億6348万円
簡易水道事業特別会計	—	2億3442万円
公共下水道事業特別会計	—	1億2793万円
合計	2663万円	49億7418万円

条例の制定

○南富良野町一般職の任期付職員の採用に関する条例

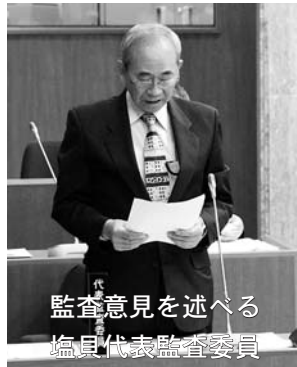
専門的な知識、経験を必要

取得金額 812万8千円

委員長	大道重治
副委員長	鹿野重博
委員	金強
委員	酒井年夫
委員	阿部修一
委員	小出直由

○教育委員会委員の任命

河野高好氏（下金山）を教育委員に任命したいとして同意を求める議案が町長から提出され、無記名投票による採決の結果、全議員の賛成により任命に同意しました。



監査意見を述べる
塩見代表監査委員

○南富良野町地域交流センター設置条例

公民館東鹿越分館としての活用がなくなり、機能を有していない状況であることから、普通財産へ用途変更をするため条例を廃止するものです。

平成29年度各会計歳入歳出決算の認定について、町長からの提案説明に引き続き、塩見代表監査委員から各会計の決算の監査意見が述べられ、議長及び議員選出監査委員を除く、議員6名で構成する決算審査特別委員会を設置して審議するよう付託され、閉会中の継続調査とすることになりました。

取得先
北海道市町村備荒資金組合

決算審査特別委員会の設置

委員会レポート

◇総務常任委員会

■危険廃屋解体撤去事業について

平成27年度から29年度までを重点期間としてきたが上限なしとしたことで補助率が20%と90%とバランスが悪い状況が見受けられたことから、補助率及び上限額の設定等について、平成31年度から平成33年度において、上限額を50万円、解体撤去事業費の半額を補助するよう条例改正し、平成31年度から事業を進めていきたいと所管課から説明があった。

委員からは、今年度は補正をして事業を行わないのか。所得制限は加味しないのか。本来の趣旨に見合った取り扱いになっていないのではないかななどの意見があった。

■住宅リフォーム助成事業について

事業実績は通常分として補助率30%、上限額50万円として、平成27年度から平成29年度の3年間で24件、953万6千円、災害特別分として2年間で30件、2173万6千

円となっている。今年度は18件、499万5千円となっており、平成31年度についても引き続き当該年度の予算状況を加味しながら、予算の範囲内で進めていきたいと所管課から説明があった。

委員からは、広範囲での取り扱いをしすぎではないか。リフォームの定義付けを見直す必要があるのではないかなどの意見があった。

■同窓会応援事業について

本事業については、平成29年度で失効しているが、利用件数の減少等を踏まえ、おおむね役目を終えたと認識しており現時点では制度の見直しは考えていないと所管課から説明を受けた。

■ログハウス村の今後の運営について

観光資源発掘調査として、道総研地質研究所の調査結果及び温泉井戸の専門業者の意見等、所管課から経過報告を受けた。

◇総合交通体系等調査特別委員会

次の三点について、特別委員会で調査を行いました。

- 一、JR根室本線災害復旧の早期実施及びJR根室本線の存続に向けた取り組み
- 二、旭川十勝道路（地域高規格道路）の整備
- 三、道の駅の整備

JR根室本線の災害復旧と存続に向けた取り組みについては、北海道、北海道議会、JR北海道本社に対し占冠村議会、新得町議会とともに歩調を合わせて要請活動を行いました。

旭川十勝道路の整備については、占冠村議会と協議を行っている、幾寅経由で十勝道と接続できるよう理解と協力をお願いし、災害時の場合の陸の孤島にならないための道路の整備を要請しています。

道の駅の整備に係る調査は、平成28年8月の災害の際に被害を受け、その為にも災害に強く、道の駅としてのより住民の皆様にも利用してもらえ

る施設であるべきとの思いから、再整備をすべく調査をしています。

以上の三点を議会としても、しっかり調査をし行政に意見を述べるべく努力をしています。今後とも私達議会に対しても是非皆さまのご意見をお聞かせくださるよう、お願い申し上げます。



一般質問（要旨）

阿部 修一 議員



問 今後の町財政の運営は

答 5カ年間の財政シュミレーションを作成し進める

①町財政について

【阿部】 今後の町財政の運営については、一昨年の災害による、特別な財政出動のほか、公共施設の維持管理や計画的な取り壊しや改修、種々の行政サービスの増加により財政負担が多くなっている。町財政の節減や事業の縮小・見直しを大胆に進める中で、町の財政を推進していく必要があるが、小手先の手法ではなく、今後どのように行財政の改革を進め、来年度以降の予算編成を進められるのか。

【町長】 小規模自治体としては町税等の自主財源の確保は厳しく、歳入予算の約6割を占める地方交付税の交付額が財政運営に大きく影響し、普通交付税においては、平成28年度に前年度対比で8800万円、平成29年度では1億3500万円の減額であり、平成30年度の交付額は平成27年度対比で約2億2000万円以上の減額となっており、厳しい財政運営となっている。町を維持していくためには、人口減少や過疎化に対する移住・定住対策をはじめ、イン

フラ整備を含め公共施設等の改修整備、経済情勢に対応した取り組みを進めながら、健全財政を維持していくために、今年度中に5カ年間の財政シュミレーションを作成し進めていく。

②防災・減災対策について

【阿部】 ①住民に対する情報伝達の方法についての検討結果と今後の推進について伺う。
②避難所としての南富良野中学校における自家発電設備の設置や資機材庫の整備について、どのようなになっているのか。

③本年度の防災訓練はどのようなになっているのか。更には、自治会関係者への周知や連携について、今後の考えは。

【町長】 ①災害時への住民周知の手段としては、防災行政無線が最も有効な方法であるという結果になったところであるが、本町の広範囲なエリアをカバーするには、整備に約4億円を超える事業費が必要になり、何よりも最優先で進めなければならぬ事業であるが、財政状況の厳しい現状においては、実施時期を定め

て整備を進めていく。それまでの間の住民への情報伝達については、引き続き公用車の広報用拡声器を使った周知のほか、要支援者への個別訪問などで対応していく。

②10月をめどに、発電設備の実施設計を行っているところであり、来年度の当初予算に計上していく。資機材庫の整備については、国が現在整備の予定をしている防災ステーションを活用させてもらう可能性も探していきたい。当面は旧森林組合事務所並びに役場内に防災資機材の保管をして対応していく。

③本年度は落合地区を予定しており、落合の自治会と日程調整をしていく。自治会関係者への周知や連携については、災害対策本部からの円滑な情報伝達を含めた防災行動を避難勧告に着目した時系列行動としてのタイムラインを国や北海道など関係機関と連携をして、本年度の策定を目指して検討しているので、今後自治会の皆様との連携などについても協議していきたい。

③道の駅・防災ステーション構想について

【阿部】 6月の定例会でも質問をしたが、一部の事業については、部分的には知らされているが「高齢者研修センター」については取り壊しをせざるだそのままであり「道の駅」「防災ステーション」については、皆目分らない状況である。今後の事業計画の推進について、町民に対し報告できることがあるか伺う。

【町長】 高齢者研修センターの取り壊しについては、11月30日を工期として解体工事を発注している。道の駅再編整備構想における民間の宿泊施設については、おおむね決定の方向で進められているとの報告を受けている。商業施設については株式会社モンベルとの連携協定締結について報告をさせていただいたところであり、防災ステーションについては、空知川整備計画の中の一部として国が事業主体となり計画が進められているところである。

問 本町の歴史建造物の保存対策は

答 町文化財保護条例に基づき 実態調査を行う

一般質問（要旨）
酒井 年夫 議員



① 本町の歴史建造物の保存対策について

酒井 古民家等、本町の歴史を語る建造物に対する実態把握と保存等について町としてのどのように考えているのか。

教育長 実態把握については教育員会で基礎調査を行い、文化財審議会に諮り、現在64か所を史跡として指定し、うち建造物は3か所あり、史跡マップ並びに町のホームページで知らせているほか、29か所に史跡標識の設置を行っている。

建造物の保存については町



文化財保護条例に基づき文化的価値が高いと認めるものを所有者の同意を得て町の文化財として指定を行い、指定を受けた後は、所有者には文化財を適正に管理、保存する一定の負担が発生することになる。

本年度中に実態調査を行い、文化財審議会の意見をいただき、保存に向けとり進めていきたい。

② 医療対策について

酒井 本町では現在幸いに町立診療所、個人開業等医師2名、歯科医1名に町民の健康管理をゆだねていますが、医師等に対して現在どのような処遇をされているのか、また医療対策協議会はどのような役割を果たしているのか。

町長 町立の診療所、歯科診療所については、施設や設備、医療機器などは町が整備をしている。また、地域における保健医療の推進を図るため運営費の一部に対し、財政支援を行っている。個人開業医の処遇については、開業の際に町の補助制度を活用いただいている。また、学校医を務め

ていただき、介護業務において、富良野地区審査会の要職を務めていただいている。

医療対策協議会については、地域医療に専念できる環境整備を行うとともに、必要に応じ医師確保の役割を担っていただいている。

3名の医師を含め地域医療の観点から懇談させていただき、保健医療の推進を図っていく、今までのやり方を今の時代に合った考え方で有効に活用させていただきたい。



③ 町営バス等の運行について

酒井 本町では運行については民間委託を行っているが、安全対策、運行管理はどのように取り組んでいるのか。また車両の修繕、燃料、消耗品等の負担はどのような基準をもうけているのか。

町長 委託業者に対する安全対策の取り組みについては運転従事者の安全教育について義務づけをし、実施後には報告書の提出を求めている。

運行管理委託については、直接的な運転手に係る人工数、社会保険料、諸経費で構成されている。運転手は、町の単価を使用し、それに月数を掛けて算出している。修繕料、燃料、消耗品等の経費及び車検整備については、見積もり業者を選定し執行し、突発的なものは町で確認のうえ対応している。燃料については、請求書に添付のチケットと運行日誌、燃費の妥当性を確認している。消耗品については、町のほうで購入し支給している。

町長の 行政報告



■北海道胆振東部地震に係る町への対応

9月6日未明に発生いたしました胆振東部地震では、厚真町で震度7を観測し、その被害は甚大であり、ここに亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りいたしますとともに、被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と復興、住民皆様に安寧が訪れることを心から願ってやまないところであります。

町では地震発生直後速やかに町内施設等の安全点検を行うとともに、単身高齢者など要支援者を対象にして安否確認を行い、停電における生活支援として食事の提供と、希

望者には就寝場所として保健福祉センターみなくるに避難所を開設し、社会福祉協議会と連携を図り対応してまいりました。

幸いにも施設や人的被害はありませんでしたが、全道的に発生した停電によりまして、本町では9月7日の夕刻には全て解消されましたけれども、この影響により町内各商店では冷凍・冷蔵品を中心に、また宿泊施設のキャンセルや製造工場の操業停止による営業損失を含めて、その被害額については現在調査中でありますが、大きな額になることが予想されるところであります。被災地に向けましては、一昨年の災害復旧の経験を生かすため、さらには当時多くの方々から受けたご支援に対する感謝の気持ちを行動に移しまして、南富良野町社会福祉協議会と連携し、町職員を復旧活動の支援として派遣を行ってまいりました。また、南富良野町商工会青年部においても生活物資の支援に取り組まれておりまして、町内各団体の支援の輪も広がりをみせているところであります。



今後とも余震や電力不足対策など予断を許さない状況が続きますけれども、被災地への支援にも取り組みつつ、町民皆さまの安全・安心の確保を最優先として防災対策に取り組んでまいりますので、町民の皆さま並びに議員各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■JR根室本線の災害復旧と路線をめぐる情勢

JR根室本線の災害復旧と路線維持につきましては、6月第2回定例会におきまして、4月16日に開催されました住民集会をはじめ、新得町議会及び占冠村議会との3議会による要請行動や、3町村と上

川町村会・十勝町村会合同の要請行動、根室本線対策協議会による中央への要請など、行政と議会が連携したこれまでの取り組みについて報告をさせていただいたところであります。

6月17日にはJR北海道の路線見直しに関し協議する6者会議が開催され、その中でJR北海道は、富良野・新得間を含む輸送密度200人未満とされる5線区については、鉄道よりも便利で効率的な交通手段に転換していく考えと併せて国からの財政支援対象外とする内容を柱とした「経営再生の見通し案」を示しました。

国土交通省からは、JRの改革に向けた取り組みを前提として、国は必要な支援を行い、輸送密度200人以上2000人未満の線区については、地域と国が協力して支援を行っていくべきものとして、財政当局との調整を図り、JR北海道の経営自立に向けた方策について、夏頃までに大まかな方向性を取りまとめる考えが示されました。

その後、7月27日には、国

土交通省はJR北海道に対し、経営の自立のための増収策と「鉄道よりも他の交通手段が適しており利便性・効率性の向上も期待できる線区については、地域の足となる新たなサービスへの転換を進める」、

「利用が少なく鉄道を持続的に維持する仕組みの構築が必要な線区については、事業者と地域が一体となって利用促進、コスト削減に努める」といった取り組みを柱にした「JR北海道の経営改善に向けた取り組み」を着実に進めるよう監督命令が出され、この中で利用が少なく鉄道を持続的に維持する仕組みが必要な線区については、「関係者による支援・協力」も示され、JR北海道の徹底した経営努力を前提として、経営自立までの間、国・地方自治体・関係者等が支援・協力を行い、国が支援するための法律の期限とされている平成31年度及び32年度の2年間にわたる支援内容は貨物列車走行線区や青函トンネルの維持管理に要する費用、経営基盤強化のための設備投資への支援のほか、地方自治体からも同水準の支

援が行われることを前提として、鉄道施設や車両設備投資及び修繕への支援が示され、2年間の支援総額を400億円台とされており。

この内容に対し、同日付けで北海道知事・北海道市長会・北海道町村会の3者によるコメントが出され、貨物列車の走行や青函トンネルの維持管理に伴う負担軽減など、これまで地域が求めてきた考え方が一定程度反映されていると評価する一方で「第1期集中改革期間」とされる平成31年度、32年度の地域が負担する法的根拠が明確でない上に地方自治体が国と同水準の支援を行うことを前提としていることや、厳しい道内自治体の財政事情の中で負担可能な支援規模や支援に対する地方財政措置が明らかになつていないことなど、多くの整理すべき課題があり、道及び市長会、町村会としては、地域の協力支援のあり方に関する本格的な議論の出発点と考え、引き続き議会や関係者会議、地域の検討・協議の場において議論を深めていくとの考え方が示され、国の方針に対する声

明として発表されたところでもあります。

その後、8月21日に開かれた6者会議において、国はJR北海道への財政支援策に係る地方自治体の負担のあり方について「同額」という意味ではなく、国と「同水準」の支援を求める方針が重ねて強調され「持続可能な公共交通の実現には地域が主体的に考えて行動することが必要である」として、あらためて地域の負担について理解を求める内容でありましたが、道や市町村が求めている具体的な負担軽減策については明言されず、議論は次回へ持ち越されたとところであります。

これらの情勢を踏まえ8月31日には根室本線対策協議会が開催され、あらためて北海道運輸局から今回の国の方針について説明を受けたところであり、この中で富良野・新得間の取り扱いについてJR北海道は輸送密度の少ない赤字線区として位置づけてしているが、道が3月に示した交通政策総合指針においては、観光列車など新たな観光ルートの可能性といった観点を考

慮する必要があることなどが明記されており、国としては、この線区の位置づけについて、いわゆる黄色線区でも赤線区でもないことを認識されており、まずは引き続き道と地域の関係者、JR北海道でこの線区をどうするのか議論いただく段階であるとの発言がされたところでもあります。

また、市町村や道、JR北海道の担当者でつくる同協議会の事務レベル検討会議が今後の判断材料として上下分離方式やバス転換した場合などの様々なケースを想定した運行経費の試算などの調査検討結果も報告され、これについては現状での分析資料として今後の協議に生かしていくこととされました。

今後の検討方向として、鉄道の維持存続の方針を守りつつ、ケーススタディ結果や道が策定した総合指針の考え方を踏まえ、滝川・新得間のあり方について、医療機関や観光協会、バス事業者や経済団体などの関係機関も交えて、生活面・観光面・物流面の3つの側面から、さらに検討・協議を進めていく方針が確認

されたところであります。

大卒の支援策として国の方針が示されたものの、富良野・新得間の不通区間に関し災害復旧についての明確な言及はないわけですが、行政といたしましては、引き続き早期災害復旧と路線維持に向け、関係機関とともに最大限の取り組みを行ってまいりますので、町民の皆さま並びに議員各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■平成28年の大雨による災害復旧状況

土木施設の道路関係では、幾寅西1号線ほか10路線、林道2路線の復旧工事が平成29年度に完了し、現在、落合線の法面洗掘箇所への復旧工事を行っており工期内に完了する見込みで順調に工事が進められております。

橋梁、河川関係では、福寿橋ほか2橋、松井川ほか2河川の復旧工事は全て平成29年度に完了しているほか、鳥獣害防止施設の復旧工事については概ね本年度で完了する見込みであります。河川整備

計画の変更に伴う災害関連工事予定箇所の幾寅富樫地先の633mについては来年度以降の実施予定となります。

また、農地関係では、北海道の復旧工事が既に完了しておりますが、引き続き営農復旧のため地力向上を目指した堆肥投入工事を実施しており、工期内に完了するよう進めております。

次に、富良野広域連合公共串内牧場関係ではありますが、道路、河川などの復旧につきましては平成29年度で完了しておりますが、水道施設の復旧工事については本年10月末までに完了すべく工事が進められている旨、説明を受けております。

国や北海道が所管する施設の復旧状況については、道路関係では既に全ての復旧工事が完了しているほか、河川関係では空知川の国直轄管理区間の工事は平成29年度で完了しており、同じく空知川上流の北海道管理区間の本年度実施しております飛渡氏所有農地隣接箇所の復旧工事については、工期内はもとより早期完成を目指して進めている旨、

関係機関から説明を受けております。

なお、本年度で、河川整備計画の変更に基づく災害関連事業を除きまして、本町に關わる災害関連の復旧工事については全て完了する予定となっております。

■町政施行50周年記念事業

「ねむの木学園美術展」の開催
町政施行50周年記念事業として開催いたしました「ねむの木学園のこどもたちとまり子美術展」につきましては、

町と町社会福祉協議会、南富良野大乗会の3団体で実行委員会を組織し、町保健福祉センターみなくるを会場に7月15日から22日の8日間開催され、期間中の来場者は、町民の皆さまをはじめ道内外から延べ約2800名を数えたところであります。

ねむの木学園からは、宮城まり子学園長のほか、準備スタッフを含む10名の職員と学園のこどもたち5名の計16名が11日夜に本町に入り、翌日から14日までの3日間、みなくるホールに設置された特設会場での展示作業が行われ、



会場内には140点を超える学園のこどもたちの絵画や宮城学園長の写真パネル、海外で開催した美術展のポスターなどが展示されました。

また、会場入口のロビーでは、ねむの木学園のこどもたちが描いた絵の作品集をはじめ学園で制作された数々の作品や宮城学園長が執筆された書籍などのショップが設置されたほか、1階の和室には、宮城学園長の提案により今回の計画にはなかったお茶室も設けられました。

美術展初日のオープニングセレモニーには、100名を超える来場者がみなるのロビーに集まり、宮城学園長と実行委員会役員によるテー

カットが行われた後、8日間にあたる美術展がスタートいたしました。

会場では、作品の展覧に加え、宮城学園長の指揮によりこどもたち5人によるコーラスが毎日披露され、学園長のトークや会場内にしめわたる歌声に感動し、涙を流す来場者もおられました。また、地

元で茶道をされている方々から道具や茶席の準備にご協力をいただき、茶道の資格を持つ学園のこどもたちから訪れたお客様にお茶が振る舞われ、連日多数の方々がお茶席を通じて学園長やこどもたちとの触れ合いのひとときに満足されてい

ました。

ねむの木学園の皆さまには、一昨年の災害を受けた町民の皆さまの心の復興に役立てられたいの思いで南富良野町での美術展開催を実現していただき、連日にわたる来場者への精一杯のサービスでもてなしされる姿は多くの町民の皆さまに感動を与えていただき、また、体調の変化が心配される中、美術展終了後に行われた最終日のセレモニーで力強くお話しされた宮城学園長か

らは「優しくしていただいて、幸せな空気を吸わせていただいて、ありがとうございます。過去には大きな展覧会や海外での展覧会などもありましたが、こんなに胸の中に残ってしまった展覧会はなかった」とのお言葉をいただきました。

この美術展開催にあたり、宣伝や準備を含め多くの皆さまのご支援とご協力をいただきましたことに心から感謝とお礼を申し上げます。

■北海道150周年記念事業 「第2回イランクラブ音楽祭」の開催

アイヌ文化を通じたふれあいの場、交流の場とすることを目指して、昨年、釧路市阿寒町において初開催された「イランクラブ音楽祭」の第2回目として、7月28日、かなやま湖畔キャンプ場において、「湖水まつり」と同日に開催いたしました。

当音楽祭は北海道150周年事業の北海道みらい事業として登録されていた事業で、当日は阿部北海道副知事をはじめ多くのご来賓のご出席をい

ただき、オープニングでは小・中学生や千里大学、地元合唱団による大合唱や中学生による群読に始まり、芥川賞作家の新井満氏とアイヌ民族で演出家の秋辺デボ氏によるトークショー、旭川チカップニアイヌ文化民族保存会による古式舞踊が披露され、スベシャルライブとして李広宏、トワ・エ・モアによる歌謡ショーと、ファイナレでは来場者によりキャンペーインメージソングである「イランクラブテウ君に逢えてよかった」の大合唱で音楽祭を終了いたしました。

この歌の歌詞にある「ここは森と湖の大地」は、まさしく本町のまちづくりキャッチフレーズと重なる言葉であり、この音楽祭を通してアイヌ文化に出会い、新たな人と人が出会う機会となったものと感じております。

本音楽祭の開催にあたりご理解とご賛同を賜りました関係者の皆さま、町民を初めご来場いただいた皆さまに、改めて感謝とお礼を申し上げます。

■農作物の生育状況

本年の農耕期間における気象経過ですが、幾寅アメダス及び上川農業改良普及センターの調査結果によりますと、南富良野町の融雪期は4月9日で、平年と比べ8日早くなっております。

幾寅に限りますと、アメダスでは3月27日に積雪深がゼロとなっており、4月の天候も日照に恵まれていたため、春耕作業は例年よりもかなり早く進んでいたものと把握しております。しかし、連休明けに一旦低温の時期があった後は高温、低温をほぼ1カ月周期で繰り返し、また降雨と日照についても、長雨と干ばつに繰り返し見舞われたという、極めて特異な経過をたどってきたものと認識しております。

こうした気象経過のもと、9月3日に行われた農業委員会における主要農作物作況調査によりますと、現在の生育状況について、各作物ともやや不良から、きわめて不良という近年に例を見ない厳しい結果となっておりますので、その内容についてご報告申し

上げます。

既に収穫を終えている作物としては小麦、大麦がありますが、双方とも粒が成長する時期に干ばつに見舞われたことなどが影響し細麦傾向であり、秋まき小麦については作況指数が「74」でかなり不良、二条大麦が「93」でかなり不良と判断されております。

次に現在、順次収穫が進んでいる作物の状況としては、馬鈴しょ、にんじん、たまねぎ、大根、そば、スイートコーンなどがありますが、馬鈴しょは芋数はあるものの小玉傾向にあり、作況指数「90」でかなり不良、にんじんは播種時期によっては生育初期に低温と日照不足の影響を受けており「70」でかなり不良、たまねぎは湿害の影響が大きく、そばは播種時期により生育に大きなばらつきが見られ、それぞれ「50」ではなはだしい不良となっております。

今後収穫期を迎える水稲、豆類、てん菜、デントコーン等については、水稲は分けつ時期に低温に見舞われたことなどから穂数が不足しており、作況指数は「90」でかなり不良、大豆は開花期の低温の影響等によりさや数が少なく、「95」でやや不良、てん菜は一部移植栽培で湿害等による生育停滞が目立ち、「62」ではなはだしい不良、デントコーンは生育初期の低温と日照不足の影響で生育が遅れ、「70」でかなり不良となっております。

作物名	作況指数	作柄
水 稲 (もち)	90	かるい不良
馬鈴しょ	90	かるい不良
にんじん	70	かなり不良
秋まき小麦	74	かなり不良
二条大麦	93	かるい不良
たまねぎ	50	はなはだしい不良
そ ば	50	はなはだしい不良
てん菜	62	はなはだしい不良

いづれにおいても、今後、収穫までの期間の気象の経過に注視する必要があると認識しているところです。

■林業大学校の地域実習拠点施設の誘致

北海道立林業大学校における実践実習拠点誘致につきましては、第2回町議会定例会行政報告においてご報告させていただきましたが、その後の状況及び今後の見通しについてご報告させていただきます。

北海道といたしましては、本年7月4日開催の第2回道議会定例会予算対策委員会において、高橋知事より道立林業大学校の設置場所について、基礎知識等を学ぶ講義拠点につきましては北海道立総合研究機構の機能を最大限に活用するとともに、交通アクセスや学生の居住環境に配慮し、旭川市の林産試験場を核として、美瑛市の林産試験場や森林施業の新たな取り組みを進めている芦別市、下川町といった周辺フィールドも含めた地域にすることとしております。

また、基礎実習拠点は、講義拠点とのアクセスや道有林の活用を考慮し、林業・木材産業の企業や施設が集積している上川やオホーツク、十勝といった地域とし、地域への就業に繋がる重要な役割を担

う実践実習拠点については、本道の多様な地域特性を考慮し、道央、胆振、日高、道南、道北、オホーツク、十勝及び根室・釧路の7地域とするこ

とについて表明されております。

今後、北海道としては、今年度中にオール北海道による広域的な運営体制の構築が図られるよう市町村や企業、関係機関などによるサポート体制や講義、実習の拠点において必要となる施設整備など詳細を明らかにした「基本計画(案)」をまとめ、今月11日から開会される第3回北海道議会や有識者会議における議論を経て年内でできるだけ早い時期に策定し、2020年度の開校を目指して道内外への情報発信を含め取り組みを加速することとしております。

このような状況を踏まえ、本町といたしましては、上川総合振興局や講義拠点である旭川市を中心とした上川管内各市町村とも連携を図り、上川地域の森づくりを担う人材を将来にわたって計画的に育成・確保することを目的として設置を検討しています上川

地域開校支援協議会に構成員として参画し、本町で実践している森林の多面的機能の発揮に配慮した複層林誘導伐や天然林択伐など本町の特徴的な取り組みについて情報発信に努め、本町が実習フィールドとして活用され、実習生が将来的に本町に就業すること

で、課題である森林づくりを担う人材の育成・確保に資することを期待し、誘致に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えておりますので、議員各位におかれましてもご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

■建設工事等の進捗状況
本年9月10日現在の町発注工事の進捗状況であります。幾寅浄水場屋上防水改修工事、教員住宅屋根外壁塗装工事は既に完了しているほか、旧東鹿越小学校屋上防水等改修工事、町有職員住宅2棟3戸、公営住宅幾寅東団地5棟20戸の解体工事、学校給食センター改修工事、各地区の水道メーター器定期取替工事は工

期内に完了する見込みで順調に工事が進められております。

土木工事の東幾寅線改良工事、幾寅市街地北5条線歩道新設工事、久住橋、東鹿越跨線橋梁補修工事、林道専用道久住川向線開設工事は工期内に完了すべく工事が進められております。

このほか金山・下金山地区浄水場機器更新工事、高齢者研修センター解体工事は準備が整い次第発注を行い、年度内に完了するよう進めてまいります。

■アウトドア総合メーカーの株式会社モンベルとの連携と協力に関する包括協定の締結

会員数86万人の会員組織「モンベルクラブ」を持ち、大阪に本社を置くアウトドア総合メーカー株式会社モンベルと、去る8月28日、町内の自然を生かした体験観光の推進などを目的とする包括連携協定を締結したところであります。

この協定には、地域の魅力発信とエコツーリズムの推進による地域経済の活性化、防災意識と災害対応力の向上や高齢者・障がい者などの自然

体験参加促進など7項目が連携事項として掲げられており、全国の自治体や企業、大学など本町は45団体目となり、道内では小清水町・東川町・網走市に次ぎ4力所目となります。

本町における「かなやま湖」や「空知川」など豊かな水資源を生かしたカヌーやラフティングなどのアウトドア環境と多数の民間ガイドを有する体験観光が推進されていることなどから、平成27年には同社がアウトドア活動に適した場所を推薦する「フレンドエリア」に南富良野町が登録さ

れ、また、同社が主催するフレンドフェアへの参加、さらに昨年度からはジャパンエコトラックの認定とカヌーやラフティング、ロードバイクなどアクティビティに適した「南富良野エリア」の情報発信について連携を進めてきたところであります。

この締結を契機として、今後、日本を代表するアウトドアメーカーとしてのブランド力を活かした連携をさらに強化し、本町の豊かな自然環境を生かしたアウトドア活動の

促進を通じ道の駅再編整備計画への協力など、地域の活性化に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えているところであります。

■陸上自衛隊により町内で実施された訓練
はじめに、陸上自衛隊上富良野駐屯地第4特科群による人命救助訓練が8月8日に旧東鹿越小学校を野営地とし、かなやま湖畔を訓練地として、上富良野駐屯地司令の指揮により実施されたところであります。

この訓練は自衛隊員による災害対処能力の向上を目的として、かなやま湖上にて要救助者を救助ボートで収容し、ヘリコプターにより搬送する訓練が公開で隊員73名により行われ、地元からの訓練展示視察に25名が参加されたところであります。

次に、平成30年度陸上自衛隊北部分隊実動訓練の一部として、8月25日から31日までの7日間、南恵庭に駐屯する第3施設団第105施設器材隊を中心に、幌別・上富良野及び旭川にそれぞれ駐屯し

ております施設群等隊員が同小学校に野営し、かなやま湖畔で南恵庭駐屯地司令の指揮により、昨年に続いて2回目となります渡河訓練が実施されたところであります。

今回の訓練は、陸上自衛隊施設部隊が持つ水上航行能力を最大限に活用し、国民保護を目的として湖を渡る住民避難を行う想定で実施されるとの説明を受けたところであります。まして、合同訓練として、訓練部隊及び本部隊員合わせて190名の隊員数・人員輸送用とした水陸両用の水陸地雷敷設車2両のほか、大型トラックを移送される浮き橋2基などが投入され、8月29日に公開されました訓練展示に地元から40名が参加されたところであります。

本町としましては、今後も引き続き陸上自衛隊の災害救助等の訓練実施に関しまして協力して参りたいと思っております。町民の皆さま並びに議員各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

教育長の 教育行政報告



■平成30年度全国学力・学習状況調査

北海道教育委員会は、小学6年生と中学3年生を対象に4月に行いました全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。全国平均と北海道全体としての比較結果では、小学生は全5教科で全国平均を下回り、中学生は全5教科中、2つの教科で全国平均を上回る結果となりました。

本町の結果は、小学生では5教科すべてにおいて全国平均を上回る結果となりました。また、中学生では5教科すべてにおいて全国平均を下回る結果となりましたが、全国との差が縮まり改善の傾向が見

受けられました。今回の調査結果をもとに検証改善サイクルの確立を図り、児童生徒一人ひとりに確かな学力を身につけさせるための組織的・継続的な質の高い取り組みを進めてまいります。

なお、結果についてわかりやすく説明する観点から、分析と学力向上策等について11月末までに町のホームページにおいて公表を行ってまいります。

■家庭教育支援「子ども朝活」事業

この事業は町内小学生を対象に学校、家庭、地域が一体となった取り組みにより、子どもの生活習慣が乱れがちな長期休業中に学習や運動、体験活動を行うものです。

本年度は8月1日から3日まで、南富良野小学校を会場として、子どもたちの望ましい生活習慣の定着に向けて、南富良野高等学校生徒や一般ボランティアの皆さんの協力により実施し、3日間で延べ148名の児童が参加し、開催いたしました。

学習では北海道教育委員会が推奨するチャレンジテストやパソコンを使つての自主的な学びの取り組みを行い、体験活動ではバレーボールや竹とんぼ作りを行いました。



今後引き続き、地域や関係機関と連携しながら、家庭教育を支援する取り組みを進めてまいります。

■南富良野中学校の部活動成績

去る6月22日、中体連球技並びに武道大会が開催され、南富良野中学校から野球・ソフトテニス・卓球・バレーボール・剣道の5種目に出場しま

した。本年度から卓球及びバレーボールは上川中央地区と富良野地区との合同開催となりました。野球・卓球・ソフトテニス女子・バレーボール及び剣道は残念ながら敗退となりましたが、ソフトテニス男子は団体で優勝し、また個人でも第3位並びに4位となりました。上川管内大会進出したしました。7月6日に旭川市で開催された管内大会では、奮闘いたしましたが残念ながら全道大会進出とはなりません

でした。

また、7月15日に北海道卓球選手権大会富良野地区学年別予選会が開催され、1年生の部で男子が優勝、2年生の部で男子が第2位並びに3位の成績を収めました。この3名は、9月15日に帯広市で開催される北海道大会への出場権を獲得しました。

吹奏楽部については、8月4日に北海道吹奏楽コンクール旭川地区予選会が開催され、銅賞となったところであります。

今後とも各部への活動を支援するとともに、活躍されることを期待するところであります。

■南富良野高等学校の部活動成績

去る6月8日、かなやま湖において開催されました平成30年度北海道高等学校カヌー大会において、カヤックシングルとカヤックペアで南富良野高等学校生徒が男女それぞれ第1位となり、男子3名、女子3名の計6名が8月2日から岐阜県海津市で開催されました全国高等学校カヌー選手権大会に出場いたしました。

出場した4種目すべてで予選を勝ち抜き決勝に進みましたが、惜しくも敗退となりました。出場した選手全員が予選を勝ち抜いたのは、昭和62年カヌー部創設以来、初の快挙となりました。

また、9月30日から10月3日までの期間で、福井県あわら市において第73回国民体育大会カヌー競技が開催され、南富良野高等学校3年生男子2名及び女子1名、2年生男子1名及び女子1名、1年生女子1名の計6名が出場いたします。北海道代表として出場する選手は、自分の持てる

力を最大限に発揮し、大会での健闘を期待しているところであります。

■南富良野高等学校の事務事業等の取り組み

本年度予算措置いたしました情報通信設備（パソコン等）の整備につきまして、8月6日に完了しました。新学習指導要領では、高等学校においても情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力と位置づけられましたので、更新したコンピュータや情報通信ネットワークを活用した学習活動の充実を図ってまいります。

次に、介護職として働く上で基本となる知識及び技術を修得するために奨励しております介護職員初任者養成研修には生徒10名が受講し、95時間のカリキュラムを終え、その後の修了試験に10名全員が合格しました。昨年度までの合格者生徒と合わせると在校生64名のうち18名の生徒が受講修了者となっております。

次に、去る8月29日、30日の2日間、社会人として求められる言動・礼儀作法、勤労



に対する心構え、態度を学び、自己理解を深め、進路実現に向けた目標を持たせることを目的に、2年生19名が町内6事業所などに協力をいただき、インターシップ（就業体験）が行われました。この経験を踏まえ、自分の適性や可能性を考慮し進路実現が図られるものと考えております。

次に、去る9月4日に平成31年4月進学予定者を対象に見学説明会が行われました。参加生徒数は、地元南富良野中学校から22名、町外の中学校から25名、合計47名の生徒と保護者10名に参加いただき

ました。見学説明会では、高校生から南富良野高等学校の紹介や、これまで成長できたことのプレゼン並びに授業見学、部活動見学などを行いました。多くの生徒に入学していただくよう情報発信とPRの強化に努めてまいります。

■公立高等学校配置計画

北海道教育委員会より平成31年度から33年度までの公立高等学校配置計画が示されました。北海道全体の中学校卒業生数は、平成30年が4万4830人でありましたが、平成33年には3829人減の4万1001人となる見込みであります。計画では、中学校卒業生数の状況等を踏まえ道立高等学校46校で48学級を減とし、1校を募集停止、1校を道立から町立に移管するなどの配置計画であります。

このうち富良野沿線5市町村では中学校卒業生数は平成30年が431人でありましたが、平成33年には115人減の316人となる見込みであります。

また、平成30年度の高等学校の入学状況では、富良野高

等学校が定員160人に対し140人の入学、富良野緑峰高校が定員160人に対し121人の入学、上富良野高等学校が定員40人に対し29人の入学、南富良野高等学校が定員40人に対し22人の入学となり、4校合わせて88人の欠員となっております。計画では、中学校卒業生数の状況、募集定員に対する欠員の状況などを勘案し、平成32年度に富良野緑峰高校の情報ビジネス科と流通経済科を総合ビジネス科に転換し、1学年4学級を1学級減の3学級とすること並びに34年度以降においても富良野地区で定員調整の検討が必要であることが示されました。

厳しい状況下にありますが生徒の多様な能力・適正等に応じた進路希望に対応できる高校づくりを進め、南富良野高校の魅力化を高めるよう努めてまいります。

会場となりました「軽井沢アイスパーク」は通年型の施設で、参加した多くのチームが1年を通じて氷上で練習を重ねている中、北海道代表チームは限られた期間での練習というハンディキャップを乗り越え優勝されましたことは、大いに評価されるものであり、今後益々の活躍を期待するところであります。

■カーリング大会における成績

本町在住の高校生2名が在籍する北海道カーリング協会強化指定チーム「絆ソラブチ」

が、北海道代表として、去る8月7日から長野県軽井沢町にて開催された、第5回J.Cカップジュニアカーリング大会に出場し、見事優勝いたしました。

この大会は、将来のオリンピック選手輩出を目指すとともに、競技のレベルアップを図る目的で開催されており、長野県・青森県・京都府などから計16チームが参加しまし

■町村議会広報研修会

(8月22日)

北海道町村議会議長会主催の議会広報研修会がポールスター札幌において開催され、3名の広報委員が参加し広報紙づくりの基本を学びました。研修会は、講師に広報コンサルタントの芳野政明氏を招き「住民に読まれ伝わる広報紙づくり」と題した講義が行われ、住民に議会の活動を伝えるための広報の基本と編集技術について研修しました。

■上川管内町村議会議員研修会

(10月23日)

上川町村議会議長会主催による管内議会議員研修会が当麻町公民館まともーるにおいて開催され、7名の議員が参加しました。

「豆腐バカ、世界に挑む」と題した講演をされた雲田康夫氏は、豆腐をアメリカに広め「ミスターTOFU」と呼ばれている。1985年森永乳業現地法人を設立したが、最初はなかなか受け入れられず試行錯誤の末、徐々に売れるようになった。

日本で売れるものは世界で売れる。地産地消から地産地消の時代へ、健康を切り口に商品は開発できる。発想の転換をして次世代の子供たちにつなぐため「情熱偏差値を高めていく必要がある」と語られています。



山形屋カリスマバイヤーの日高博昭氏からは「山形屋の北海道主催北海道の物産と観光展への取り組み」と題し、「北海道の好物を鹿児島へ」をコンセプトに行っている「北海道の物産と観光展」の取り組みを中心に、北海道に

は多くの魅力ある物産が多くこれからはブランディングをすすめる、企画をすることで価値が上がり、ますます魅力あるものができる。テレビ局などタイアップなどをはかり、露出度を高めること、期待を上回るものを提供するなど、道内各地域に共通する手法だと感じる等の内容で講演が行われました。



雲田康夫氏



日高博昭氏

■富良野沿線市町村議会議員研修会

(10月29日)

富良野沿線市町村議会議長会主催による議員研修会が保健福祉センターみなくろで開催され、7名の議員が参加しました。山梨学院大学教授江藤俊昭氏を講師に「地方自治の根幹としての議会及び議員の役割」と題し、地方議会の改革として本格的な地方分権時代を迎えるなか、これからの議会改革の取り組み方などについて講演が行われました。



議会を傍聴してみませんか

町議会は、定例会が年4回（3月・6月・9月・12月）開かれ、そのほか臨時会が必要ある時に開かれます。

町政の運営状況や議員の活動状況を知るためにもよい機会ですので、議会を傍聴してみたいはかがでしょうか。

●次の定例会開催日● 12月12日から14日（予定）



議決された意見書（要旨）

林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

1. 森林の多面的機能を持続的に発揮し、林業・木材産業の振興と山村における雇用の安定化を図るため、森林整備事業及び治山事業の財源を十分かつ安定的に確保すること。
2. 森林資源の循環利用を通じて林業・木材産業の成長産業化を実現するため、地域の実情を十分に踏まえ、森林整備から木材の加工・流通、利用までの一体的な取り組みや、森林づくりを担う林業事業者や人材の育成に必要な支援措置を充実・強化すること。

【提出者】金 強 議員 【賛成者】阿部修一 議員・鹿野重博 議員

【提出先】衆・参議院議長・内閣総理大臣・財務大臣・総務大臣・文部科学大臣・農林水産大臣
経済産業大臣・国土交通大臣・環境大臣・復興大臣

議決された意見書は、議長名でそれぞれの関係省庁に提出しています。

議会の動き

平成30年 8月～10月

8月4日 ○ふくしあ夏祭り

5日 ○北海道150年記念式典（札幌市）

6日 ○陸上自衛隊上富良野駐屯地幹部異動に伴う歓迎会（上富良野町）

8日 ○陸上自衛隊上富良野駐屯地人命救助（救命ボート）訓練視察

11日 ○北口ゆうこう道議と語る青空の集い（士別市）

16日 ○根室本線対策協議会（富良野市）

18日 ○地域ふれあい盆踊り大会

22日 ○町村議会広報研修会（札幌市）

28日 ○第44回南富良野町福祉スポーツ大会

29日 ○総務常任委員会 ○全員協議会
○総合交通体系等調査特別委員会
○陸上自衛隊北部方面実働演習南富良野町かなやま湖渡河訓練展示公開
○陸上自衛隊山崎幸二幕僚長との懇談会

31日 ○平昌オリンピックカーリング日本代表山口剛史選手報告会

9月1日 ○第36回南富良野大乗会「ふれあいフェスタ」

2日 ○フォレストタウン記念植樹祭

4日 ○4路線（宗谷線、石北線、根室線、富良野線）合同説明会（旭川市）

13日 ○議会運営委員会 ○全員協議会
○総合交通体系等調査特別委員会

19日 ○南富良野町議会第3回定例会

～21日 ○議会運営委員会 ○全員協議会
○総務常任委員会
○総合交通体系等調査特別委員会
○議会広報特別委員会

9月22日 ○自由民主党副幹事長北村経夫参議院議員講演会（富良野市）

29日 ○南富良野中学校学校祭

30日 ○南恵庭駐屯地創設66周年・第3施設団創隊57周年記念行事（千歳市）

10月3日 ○林野庁北海道森林管理局長講演会

4日 ○上川管内町村議会議長研修会（占冠村）

9日 ○災害救助等の実働訓練地に向けた中央要請（東京都）

11日 ○富良野沿線市町村議会議長会定例（秋期）議長会（占冠村）

17日 ○空知川南富良野幾寅地区地域連携防災事業報告会

18日 ○上富良野駐屯地の現状規模の堅持に関する中央要望（東京都）

20日 ○南富良野小学校学芸会

21日 ○衆議院議員ささき隆博ふるさとの集い（旭川市）

23日 ○上川管内町村議会議員研修会（当麻町）

29日 ○富良野圏域における河川整備促進に関する要望活動（旭川市）

○富良野沿線市町村議会議員研修会

31日 ○総合交通体系等調査特別委員会懇談会